

東三国中校長室だより 「道」

「みなさん！お聞きください」

現在のお昼休みボランティアの意味は、生徒の安全確保と昼休みの確保にあります。この4月から給食実施日にお越しいただいている学校元気アップボランティアの皆さんのお陰で、昼休みのトラブルが以前より激減し、生徒も全員20分間の昼休憩がしっかりとれています。たいへんありがたい話です。

ところで、このような本校の学校元気アップボランティアの導入の成果がはつきりと両小学校にも波及しているようです。新東三国小学校の吉田校長先生、東三国小学校の小林校長先生とも、現在、お昼休みの見守りなどのボランティアを募集しており、子供たちの安全確保のために、地域に協力を求められています。

しかし、今、ここで本校では問題が起こるかもしれません。それはなにかと言うと、現在、地域からお越しになっているボランティアの方々には体がひとつしかなく、多くの方々が、小学校も気にしておられます。私は中学校の校長でありますが自校の利益を考え「うちだけを見てください」と言うわけにいきません。

ご存知かと思いますが、現在、東三国中以外の多くの中学校では先生と生徒ですべて給食の後片付けをしているために、生徒も先生も昼休み（先生の場合は5限の準備時間）がほとんど取れずに、たいへんストレスがたまっている状態です。

本校は現在の給食のデメリットをできるだけ無くして、お弁当とほぼ同じ時程で進むように、各学年の教室に近い、3箇所の集積場所に配膳台を置き、生徒の負担をできるだけ軽減しています。最初は生徒たちが班単位で取りに来ますが、返却は各自で集積場所に返します。その後は、ボランティアの方々が安全見守りを兼ね、声をかけながら給食器の後片付けをしてくださり、生徒たちは解放されます。それが昼休みの穏やかな時間確保の原動力になっています。しかし、お越しになっている方々の大半は小学校も気にされており、校長としてより安全確保が必要な小学校に積極的にご協力をと伝えています。となると、ボランティアさ

平成26年10月3日

発行者 名田正廣

の減少→給食の後片付けをする生徒が必要→昼休みの確保ができなくなる→ストレスが溜まる→トラブルが起き、学習効果も下がる。という悪循環が起こります。また、見守りがなくなる→トラブルが増える。といったことも考えられます。

さて、皆さんは中学生の集団をどうお思いでしょうか？

私は今までの経験則から、子供の安心感は何から生まれるかという、小学生であろうが、中学生であろうが、高校生であろうが、大人の目であると確信します。中学生は「見ていても見ていなくても一緒」とお思いの方はいませんか？ それは全くの思い違いです。彼らは思春期の難しい時期かもしれませんが、そんな不安定な時期だからこそ、そばで居てやるだけのごく安心するのです。

現在、本校が落ち着き、学力も体力もハイレベルにあるのは、多くの人の目が生徒に注がれているからであり、これで、恩恵を被るのはいうまでもなく、未来を担う生徒たちです。現在、そのボランティアさんの活動の意味を生徒たちに考えさせて、新たな行動を起こす取り組みも計画中です。

その安定を今後も継続するためには、いま、皆さんのご協力が必要なのです。

特にお昼休みボランティア(1時～1時30分)の協力があれば本校はたいへん助かります。この記事を読んで賛同してくださる方。たとえ週1でも結構です。ランダムでも結構です。すべての学校はいま、すべきことに対して「人手不足」であるので、どうかご協力ください。給食のある日に直接、職員室前に1:00に(45分授業の時は12:40)お越しください。そして、コーディネーターの大西さん、増田さんか教頭までお申し出を。

いつからでも結構です。よろしくお願いします。NADAからのお願いです。
PS

お仕事や家庭、その他の事情のある方に無理を言っているわけではありません。ボランティアはできるときに任意で余力を分け与えることです。

その点をご理解ください。今月は文字ばかりでごめんなさい。